



平成 30 年 5 月 11 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 小 崎 隆 司
(コード番号：8705)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 増 田 潤 治
電 話 03-5543-8705

平成 30 年 3 月期通期の連結業績見直しに関するお知らせ

平成 30 年 3 月期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の連結業績につきましては現在集計中ですが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 30 年 3 月期の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
前期実績 (平成 29 年 3 月期) (A)	2,840	△698	△678	△858
当期実績見込み (平成 30 年 3 月期) (B)	2,737	△189	△153	△176
増 減 額 (B - A)	△103	509	525	682
増 減 率 (%)	△3.6	-	-	-

2. 差異が生じた理由

当連結会計年度のわが国経済は、政府の景気対策等の効果もあり緩やかな景気回復基調が続きました。良好な企業業績を背景に雇用・所得環境も改善しており、個人消費や民間企業設備投資など国内需要も持ち直しています。ただし、賃金の伸びは緩やかなものにとどまっており、物価の動向についても、デフレではない状況にはなっているものの、消費者物価の基調は横ばいとなっています。

商品市況は、貴金属は北朝鮮を巡る地政学的リスクが高まったことなどから一旦は上昇しましたが、為替が円高に振れたことから年度末にかけて値を下げました。原油はOPECが主導する協調減産により概ね堅調な推移となりましたが、米国のシェールオイルの増産や為替の円高から年度末にかけてはやや値を下げて終了しました。これらの背景から、全国市場売買高は51,379千枚（前年同期比99.5%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料につきましては、1,584百万円（前年同期比68.1%）となりました。また、売買損益につきましては、ゴム市場におけるディーリングが好調に推移し、132百万円の利益（前年同期比184.2%）となりました。このほか、外債販売が増加したこともあり、有価証券関連事業における売買損益で634百万円の利益（前年同期比334.3%）を計上しております。

この結果、営業収益は2,737百万円（前年同期比96.4%）となる見込みであります。また、販売費及び一般管理費は、2,927百万円（前年同期比82.7%）となる見込みであります。これらにより、営業損失は189百万円となり、経常損失は153百万円をそれぞれ計上する見込みであります。これに加えて固定資産の減損損失87百万円を特別損失に計上したことなどから、親会社株主に帰属する当期純損失は176百万円となる見込みであります。

以 上